

# 「鬼太鼓の森づくり」について

「鬼太鼓の森づくり」協議会

「鬼太鼓の森」は、林野庁が推進する「木の文化を支える森※づくり活動」の一環として、佐渡島（旧新穂村）の国有林に造られた、市民が主体となって森林整備活動を行うフィールドです。ここでは、佐渡島の国有林を管理する下越森林管理署と佐渡市長を会長とする「鬼太鼓の森づくり」協議会が協定を結び、佐渡島の伝統芸能である鬼太鼓を永続的に継承していくために、ケヤキやホオノキ、ヤマザクラ等の太鼓やバチ等の材料となる樹木を一般の方々の手で育て上げ、将来に渡りこれらの木材を島内で確保できるようにすることを目的としています。

これまでは、「鬼太鼓の森づくり」協議会が中心となって、ボランティアの方々と共同で下草刈り等の保育作業を行ってききましたが、植栽地周辺樹木による日照不良や野ウサギによる食害および積雪圧等により、その生育は芳しくない状況でした。

また、本来は市民による森づくり活動となるべきフィールドですが、この森のことを知らない人たちが多くいることも課題となっていました。

このため、下越森林管理署及び新潟大学の協力により、日照不良の改善、野ウサギによる食害や積雪の影響を受けないよう対策を施し、一般の方々にも広く鬼太鼓の森を知ってもらい、積極的に活動に参加していただけるような活動を展開しているところです。平成 29 年 10 月には、「鬼太鼓の森」のメインの植栽木となるケヤキについて、新たに苗木の植栽を行い、平成 30 年 5 月から保育活動となる下草刈り作業を行っています。

※「木の文化を支える森」とは

木の文化の継承を目的とした修理及び修復に大径長尺材を必要とする歴史的な木造建築物、特定の樹種材に依存している工芸品及び祭礼行事等の資材を確保するための森林整備・保全活動を行う場として、国有林をフィールドとして提供するものです。全国で 23 箇所設定されており、新潟県内では、「鬼太鼓の森」1 箇所のみとなっています。

